

# 和歌山市河東，河西工業用水道事業の紹介

## ○地域の概況及び事業

和歌山市は、和歌山県の西北端に位置し、大台ヶ原に源流を有する水量豊富な紀の川の河口に形成された気候温暖な地で、清浄な水質と豊富な地下水に恵まれ、古くから繊維、染色、化学及び皮革工業等の中小企業が発達し、城下町から産業都市へと発展を遂げてきた。また、明治22年に市制を施行以降、県都として政治、経済、交通の中心地として発展してきた。

ところが、昭和21年の南海大地震のため紀の川河口流域に地盤沈下をきたし、塩害による水質悪化が著しくなり産業面に憂慮すべき事態を生じたため、河東地区にさく井及び紀の川表流水を原水とする河東工業用水道を計画した。この工業用水道は、工場の塩害を解決すると同時に工場で使用されていた上水道を一般家庭に供給できるという名案で、昭和28年から32年度に至る5年継続事業として昭和29年5月に着工し、33年3月全国各都市のトップをきって竣工、送水を開始した。

また、本市の河西地区は、紀の川河口平野に位置して和歌山港を有し、飽和化した阪神工業地帯に近接して、臨海工業地帯として飛躍し、鉄鋼業や化学工業の工場があり、これら既設の工場も河東地区同様地盤沈下のため水質悪化となり、また、工場の新增設、大企業の協力工場の建設等に対処するため第1期拡張工事として昭和33年から工事を実施することとして、昭和34年1月に着工した。当初の給水計画は70,000m<sup>3</sup>/日で、その後、第2～4期の拡張工事を実施した。

## ○河東工業用水道

河東地区においては、捺染工場を中心とする納定、中之島地区の工場地帯と、皮革、化学工場を中心とする芦原、宮前地区の工場地帯があり、これらの工場は自家用水によって需要を満たしていたが、地盤沈下による水質悪化と湧水量の不足により生産能率の低下を来したため、これらの既設工場（53社）に計画給水量40,000m<sup>3</sup>/日の送水施設を創設事業として昭和28年に着手し、総工事費3億1百万円を投資して、昭和33年3月に完成した。

平成19年度末においては、繊維8工場、化学13工場、皮革10工場、その他5工場の計36工場に給水を行っている。

## ○河西工業用水道

河西地区においては、和歌山港を有し、鉄鋼業や化学工業の企業が早くから進出していた。そしてこれらの企業の協力工場が多数建設されることが予期されたため、昭和33年に3年計画で第1期拡張事業として、計画給水量70,000m<sup>3</sup>/日の施設能力を持つ六十谷第1浄水場の建設に着手した。

その後、既設工場の生産設備の大幅な増設により第2期拡張工事として85,000m<sup>3</sup>/日の施設を増設した。さらに、河西地区北部臨海工業地帯に大量の工業用水を供給するため、昭和38年度から第3期拡張工事として、189,000m<sup>3</sup>/日の能力を持つ六十谷第2浄水場の建設に着手し、昭和42年3月に完成した。

昭和44年度からは、市内西部の臨海工業地帯開発事業の一環として西浜、水軒地区に工業用水道を供給するため第4期拡張工事が行われた。

現在は六十谷第1・2をあわせて415,000m<sup>3</sup>/日の施設能力を有し、平成19年度末において、鉄鋼業や化学工業の工場など18工場に工業用水を供給している。

## ○和歌山市水道局HP

<http://www.wakayamashi-suido.jp/>

## 六十谷第1・2浄水場航空写真

